

令和 6 年 2 月 19 日

多賀城市議会議長 殿

会 派 名 自由民主党多賀城市議団

代表者名 米澤 まき子



調査研究報告書

このことについて、下記のとおり実施したので、概要を報告します。

記

1 報告者（参加者）

(1) 代表 米澤 まき子	(5) 本間 圭
(2) 鈴木 新津男	(6) 太場 和晃
(3) 佐藤 雅博	(7) 大内 裕太
(4) 千葉 文昭	(8)

2 調査研究の概要

□調査期間：令和 6 年 2 月 9 日（金）～令和 6 年 2 月 10 日（土）

※「1 調査者名」の(1)～(3)はAグループ、(4)～(7)はBグループとし、Aグループは2月10日（土）のみの調査、Bグループは2月9日（金）から2月10日（土）の調査期間とする。

□調査目的：多賀城創建1300年記念事業の今後の展開に対し、より実効性のある提案を行うため、奈良時代、朝廷の出先機関として、陸奥・出羽（東北）地域を治めていた本市とほぼ同じ時期に西海道（九州）を治める役所として機能していた太宰府市の歴史や伝統文化に対する見識を深めるとともに、開催が予定されている万葉大茶会が円滑に執り行えるよう議員の立場から支援するため、今年度開催地の調査及び協力団体へのヒアリングを実施するもの。

□調査手法：視察調査

□行程又は日程：添付行程表のとおり

□調査先及び調査事項

調査日時	調 査 先	調査事項及び現地視察の有無
9 日（金） 15:00～16:30	福岡県福岡市西区 九州大学水素エネルギー国際研究センター	九州大学水素エネルギー国際研究センター（研究内容、大茶会への協力内容、水素エネルギー普及可能性等をヒアリング）
10 日（土） 9:30～11:30	福岡県太宰府市	九州国立博物館視察
10 日（土） 12:30～18:30	福岡県太宰府市	万葉大茶会視察

□調査資料：添付調査先作成資料のとおり



3 調査の概要

別紙のとおり

4 所感（今後の市政に資する点）

別紙のとおり

宮城県多賀城市議会 会派行政視察等 行程表 (Aグループ)
 < 調査研究用 >

会 派 名「自由民主党多賀城市議団
 」

■日 程：令和 6 年 2 月 9 日(金)～ 2 月 11日(日)

日 程	行 程
<1日目> 2月9日 (金)	多賀城市役所14時発(自家用車)～仙台空港16時25分(飛行機)～福岡空港 18時40分着～福岡空港駅18時55分発(福岡市営空港線260円)～博多駅 19時着～博多駅発19時11分(JR鹿児島本線特急緑55号280円)～二日市駅 19時26分着～徒歩～宿泊先19時40分 (運賃合計540円) ■宿泊 二日市温泉 大観荘 福岡県筑紫野市湯町1～12～1 電話 092～9223236
<2日目> 2月10日 (土)	宿泊先8時50分(タクシー)～九州国立博物館(タクシー)～太宰府政庁 跡(万葉大茶会会場)12時5分着～大茶会開催状況視察12日30分～18時～ (シャトルバス)～ホテル日航福岡(交流会)19時30分～21時30分～ (シャトルバス)～宿泊先22時15分 (タクシー運賃合計) ■宿泊 二日市温泉 大観荘 福岡県筑紫野市湯町1～12～1 電話 092～9223236 ■調査事項等 1. 九州国立博物館(歴史・文化施設等現地視察) 2. 令和の万葉大茶会(開催状況等現地視察)
<3日目> 2月11日 (日)	宿泊先10時40分(徒歩)～筑紫野駅(二日市温泉入口10時52分)～ 福岡空港国際線ターミナル北駅11時14分着～(徒歩)～福岡空港11時20分 ～福岡空港14時発～仙台空港15時40分着～(自家用車)～多賀城市役所着 17時15分 (運賃合計560円)

※調査日は2月10日

宮城県多賀城市議会 会派行政視察等 行程表 (Bグループ)

< 調査研究用 >

会 派 名「自由民主党多賀城市議団

■日 程：令和 6 年 2 月 9 日(金)～ 2 月 11日(日)

日 程	行 程
<1日目> 2月9日 (金)	多賀城市役所8時発(自家用車)～仙台空港10時15分発(飛行機)～福岡空港12時35分着～福岡空港駅13時51分発(福岡市営空港線筑前前原駅行570円)～九大学研都市駅14時27分着～九大学研都市駅14時32分発(九州大学線・周船寺経由・昭和バス330円)～九州大学工学部14時51分着～徒歩～九州大学水素エネルギー国際研究センター(15時～16時30分視察)～徒歩～九州大学工学部16時32分発～(九州大学線学園通経由昭和バス330円)～九州大学研都市駅16時52分着～九州大学研都市駅16時59分発(JR肥後線福岡空港行530円)～博多駅17時30分着～博多駅発17時43分(JR鹿児島本線大牟田行280円)～二日市駅18時4分着～徒歩～宿泊先18時15運賃合計2040円 ■宿泊 二日市温泉 大観荘 福岡県筑紫野市湯町1～12～1 電話 092～9223236 ■調査事項等 九州大学水素エネルギー国際研究センター(令和の万葉大茶会協力団体に対し、研究内容、大茶会への協力内容、水素エネルギー普及可能性をヒヤリングするもの)
<2日目> 2月10日 (土)	宿泊先8時50分(タクシー)～九州国立博物館(タクシー)～太宰府政庁跡(万葉大茶会会場)12時5分着～大茶会開催状況視察12日30分～18時～(シャトルバス)～ホテル日航福岡(交流会)19時30分～21時30分～(シャトルバス)～宿泊先22時15分 (タクシー運賃合計) ■宿泊 二日市温泉 大観荘 福岡県筑紫野市湯町1～12～1 電話 092～9223236 ■調査事項等 - 九州国立博物館(歴史・文化施設等現地視察) - 令和の万葉大茶会(開催状況等現地視察)
<3日目> 2月11日 (日)	宿泊先10時40分(徒歩)～筑紫野駅(二日市温泉入口10時52分)～福岡空港国際線ターミナル北駅11時14分着～(徒歩)～福岡空港11時20分～福岡空港14時発～仙台空港15時40分着～(自家用車)～多賀城市役所着17時15分 (運賃合計560円) ※調査日は2月9日、10日

自由民主党多賀城市議団 研修・視察概要・所感

日 時 令和6年2月9日（金）15時から16時30分

場 所 福岡県福岡市西区 九州大学水素エネルギー国際研究
センター

講 師 国際研究センター長 佐々木一成

研修・視察内容 万葉大茶会 太宰府大会の水素エネルギーへの
協力内容と普及可能性のヒアリング

参加者 (4)(5)(6)(7)の4名

● 概 要

国際研究センターでは水素エネルギーが二酸化炭素を排出しないクリーンな次世代のエネルギー源として捉え、活用を目的に研究が行われています。研修では水素エネルギーのメリット、デメリット、課題等を学びました。施設見学では施設内にある自動車に水素を補充する水素ステーションを見学しました。

● 所 感

水素エネルギーは、まだまだコストが高くあまり普及していません。
安全なエネルギーであることもあまり普及していません。

これからの社会に必要とされるクリーンエネルギー源として国が率

先して普及啓発に努めるべきと考えます。地方事例として宮城県富谷市では、水素エネルギーを活用した取り組みが既に行われています。国内の一部では車輦用、工場用、家庭用など使用可能な状況です。次世代のエネルギー源として安価で誰でも使いやすい政策を行って行く事が重要であると思います。いかにして本市にも普及させることができるか会派全員でしっかりと考えていきたいと思っています。

日 時 令和6年2月10日（土）9時30分から11時30分

場 所 福岡県太宰府市 九州国立博物館

視察内容 太宰府市の歴史や文化、多賀城市との関わり

案 内 館内ボランティア

参加者 （1）から（7）の7名

●概 要

多賀城市とほぼ同じ時期に九州を治め、役所跡として機能していた太宰府の歴史や伝統文化に対する見識を深めるため館内ボランティアの説明を受けました。また、開催されていた画家、長沢ろせつの特別展を観覧しました。

●所 感

奈良時代、朝廷の出先機関太宰府と陸奥、出羽地域を治めていた多賀城の歴史や文化の違いについて着目し説明や展示物を見学しました。同じ特別史跡であり政治、軍事の拠点ではありますが、その手法や規模は周辺の状況が異なるため同じではないと思いました。過去に学び、今を見つめ、未来へ繋ぐことが私達には求められていると思います。今回学んだことが反映されるように会派内で共有を図り 1300 年、1301 年と自然、歴史、文化、そして温かな人の輪に囲まれた文化交流拠点づくりに寄与して行きたいと思います。

日 時 令和 6 年 2 月 10 日（土）12 時 30 分から 18 時 30 分

場 所 福岡県太宰府市

視察内容 万葉大茶会

参加者 (1) から (7) の 7 名

●概 要

令和 6 年 10 月 12 日に多賀城市で万葉まつり、万葉大茶会が開催されます。より実効性のある提案を行うため、政庁で行われた記念式典と梅花の宴の再現、太宰府天満宮での大茶会、九州国立博物館での基

調講演、大会キーの伝達式に参加して来ました。

●所 感

長い歴史の中で先人たちが築き上げてきた固有の歴史や価値をこのプログラムの中で再認識しました。後世にわたる地域の誇りとして磨き上げ活力ある未来へのスプリングボードとなりえるかの視点を持って視察しました。日本最古の歌集である万葉集をテーマにゆかりの自治体が一堂に会し、万葉大茶会を通して交流が深められることは非常に有意義な時間でした。この事業の基本理念である歴史と文化の継承、賑わいと魅力の創出は新たな多賀城の文化創造に合致します。会派で共有を図り多賀城ならではの喜びや幸せが感じられるよう文化と芸術の力を基軸としたまちづくりに寄与していきたいと思っています。



令和の万葉大茶会・太宰府大会 水素エネルギーの活用について



このたび大宰府政庁にて、「令和の都 だざいふ万葉体験」記念式典 ならびに、新元号「令和」の典拠となった万葉集「梅花の宴」の再現を実施致します。

梅の花をこよなく愛した歌人・大伴旅人、旅人の子で万葉集を編纂し、自然の美しさに深い想いを込めた大伴家持、その精神に基づき、

「人と環境にやさしいまほろばの里・太宰府」

として、電源には「水素エネルギー」を積極的に活用し、悠久の歴史と自然環境に配慮した大会運営を実施致します。

<令和の都だざいふ万葉大茶会実行委員会>

(※当日、大宰府政庁にお越しの訪日外国人旅行者の方々には、水素エネルギーを使ったキッチンカーで作った、福岡県の食材を利用したブイヤベースを先着80名様にご提供いたします。)

九州大学では、伊都キャンパスを「水素実証キャンパス」と位置づけ、2003年より「水素社会」を具現化する試みを行っています。キャンパス内に、再生可能エネルギー由来の電力で水素を製造する水素ステーションや水素社会ショールームを設けて、水素エネルギー技術を可視化し、環境教育活動や普及啓発活動、情報発信、社会受容性の向上に努めてきました。約20年間の見学者数は約67,000人に達しています。この脱炭素環境教育の取り組みが評価され、環境省の「令和元年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰・環境教育活動部門」を受賞しました。

また、九州地域のグリーンイノベーションハブとして、福岡県や福岡市などと連携し、地域成長戦略や脱炭素社会モデル構築などの政策の提言、イノベーションを牽引する高度人材の育成や、2015年には全国に先駆けて、国土交通省・福岡市とともに、下水処理場の汚泥から水素を作る水素ステーションの実証を開始、世界で初めて大学公用車に燃料電池自動車（FCV）を導入し、2023年には伊都キャンパスとJR駅間で燃料電池（FC）バスの走行実証を開始しています。FCVやFCバスには九大水素ステーションで製造した水素を使用しています。水素の利活用による脱炭素化のためには、利用時のみでなく製造時や貯蔵・輸送時なども含め、一貫した取り組みが必要です。今後も、九州大学の水素エネルギー分野の強みを活かして、脱炭素社会の実現に貢献して参ります。



九州大学 副学長水素エネルギー国際研究センター長
佐々木一成

自動車業界では、2050年カーボンニュートラル実現に向けて様々な取組を加速しています。具体的には、電気自動車、プラグインハイブリッド車、燃料電池車などクリーンエネルギー自動車を普及させていくとともに、合成燃料の早期開発に取り組むなど、様々な手法でカーボンニュートラルを実現に取り組んでいるところです。中でも、水素エネルギーを活用する燃料電池車や水素自動車は、日本の技術力が高い大変有望な分野です。EV一辺倒ではなく、日本の強みを生かした多様な世界戦略が求められているものと考えます。

我々の取組を国も後押ししており、クリーンエネルギー自動車の導入を加速するためのユーザー向けの補助金（CEV補助金）や、EV用の充電設備・燃料電池車用の水素充電設備の整備に必要な補助金などに、令和5年度補正予算において約1,600億円が措置されたところです。

国内で燃料電池車等の普及を進めていく上では、最後は国民であるユーザーに選択していただかなければなりません。そうした意味で、ユーザーとの最前線にいる我々ディーラー業界の役割が極めて重要だと考えています。水素ステーションの整備を自治体や関係業界と進めるなど、様々な環境整備にも取り組んでまいります。今後とも業界をあげて脱炭素社会の実現に取り組んでまいります。

一般社団法人日本自動車販売協会連合会 副会長 小糸正樹

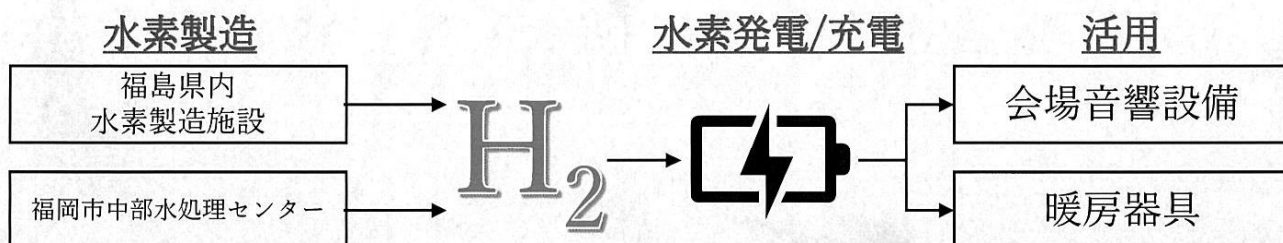


第一実業株式会社

第一実業株式会社は、伝統と革新が融合する令和の万葉大茶会 大宰府大会の趣旨に賛同し協賛しています。

当社の紹介する最先端水素ソリューションによる電源供給は、環境に配慮したエネルギーの未来を象徴しています。この茶会での私たちの展示が、持続可能な社会への実現への第一歩となることを目指しています。

《今回の水素利活用フロー》



株式会社 孫の手



環境省グッドライフアワード
環境大臣賞 優秀賞受賞 (2019年)

孫の手トラベルは、トヨタ自動車と連携して水素燃料電池キッチンカー（FCキッチンカー）を国内初導入、これを活用したアウトドアレストラン事業を展開しています。また、FCキッチンカーによる食の旅「フードキャンプ」や「水素ツーリズム」事業に取り組んでいます。



福島からの水素応援隊



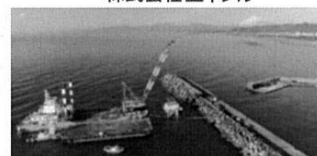
（株）エイブルは、福島第一原発の廃炉エンジニアリングに尽力する一方、福島の復興と未来に向けてFH2R（福島水素エネルギー研究フィールド）のある浪江町、請戸漁港での地産地消クリーンエネルギーインフラ構想に取り組んでいます。

株式会社 エイブル

Yes, it's possible!



株式会社 エイブル



両社は共同で福島県浪江町 請戸漁港の鮮魚、そしてこの度被災された北陸、富山県高岡市の野菜で仕立てたブイヤベースをご提供し、令和の万葉大茶会 太宰府大会を応援します。

長沢芦雪は、18世紀後半の京都で活躍した人気絵師。

現代でも奇想の画家の異名で親しまれ、国内外で高く評価されています。

その芦雪の画業をたどる本格的な展覧会が、この冬、いよいよ九州に初上陸します。

代表作の龍・虎・猿（和歌山無量寺・串本広孝斎美術館所蔵）をはじめ、

初期から晩年までの選りすぐりの作品が一堂に会します。

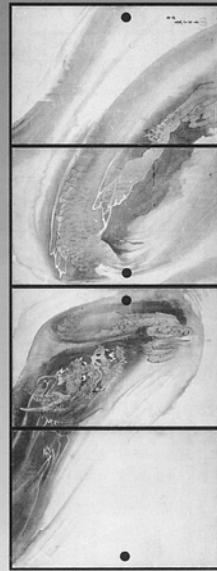
芦雪ならではの奇抜な着想と大胆かつ卓越した筆遣いを堪能ください。

また、本展覧会では、芦雪と同時代に活躍した

伊藤若冲・岡山彦季・池大雅・与謝蕪村による珠玉の名品もゲスト出陣します。

日本美術の巨匠らが競い合い、創造的エネルギーを燃やした

18世紀京都の絵画世界に皆様をご案内します。



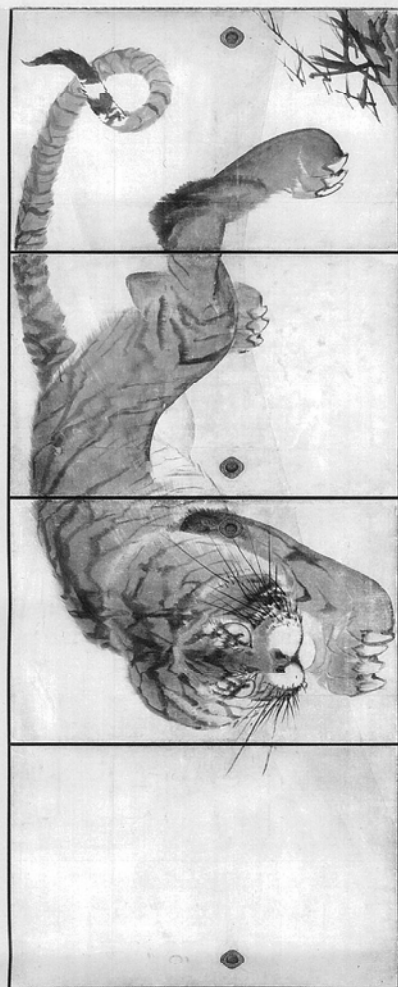
後期 長沢芦雪
龍図（部分） 和歌山無量寺
3月5日～3月31日



後期 長沢芦雪 虎 無量寺蔵 3月5日～3月31日



前期 長沢芦雪
猫雪見図（部分）
全館展示（重要文化財） 京都府立美術館蔵
2月6日～3月31日



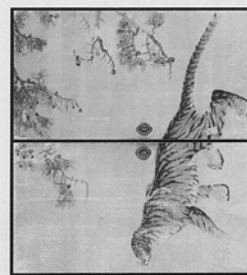
前期 長沢芦雪 虎図（部分） 重要文化財
和歌山無量寺・串本広孝斎美術館蔵
2月6日～3月31日



前期 長沢芦雪 山猿図 重要文化財 広島 広島県立歴史博物館蔵
2月6日～3月31日

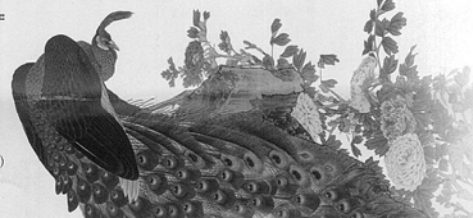


後期 長沢芦雪
群鳥図（部分） 重要文化財
京都 大徳寺蔵
3月5日～3月31日



前期 長沢芦雪
松虎図（部分） 奈良市市立美術館蔵
2月6日～3月31日

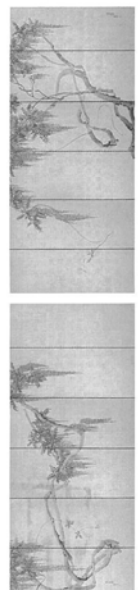
前期 長沢芦雪
牡丹孔雀図（部分）
京都 下鴨神社蔵
2月6日～3月31日



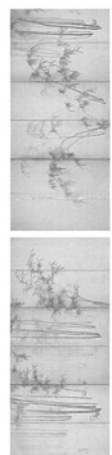
企画展を記念して
特別公開作品



後期 伊藤若冲
鶴と鶴図
MIHO MUSEUM蔵
3月5日～3月31日



後期 岡山彦季
藤花図（部分）
重要文化財
京都府立美術館蔵
3月5日～3月31日



前期 岡山彦季
雨竹風竹図（部分）
重要文化財
京都府立美術館蔵
2月6日～3月31日



前期 池大雅
蘭亭曲水龍山勝会図（部分）
重要文化財
福岡県立美術館蔵
2月6日～3月31日

「古の時代」と「未来」をつなぐ。

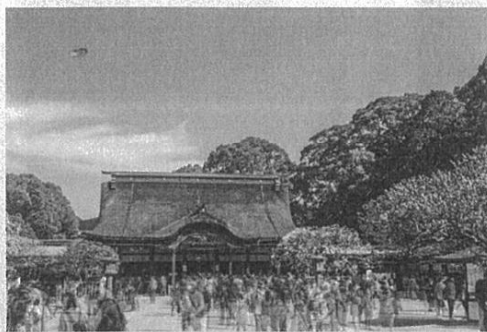
わが園に梅の花散る
ひさかたの天より雪の流れ来るかも



旅人と家持
令和ゆかりの地を訪ねて

令和の 万葉 大茶会

2023年度 太宰府大会
～ 令和の都 だざいふ ～



日時：令和6年2月10日（土）

会場：福岡県太宰府市 大宰府政庁跡・太宰府天満宮文書館
九州国立博物館 ミュージアムホール

ようこそ「令和の都 だざいふ」へ。 歴史とともに、皆様をお迎えいたします。



令和の都だざいふ万葉大茶会
実行委員会 会長

不老 安正

「初春の令月にして気淑く風和らぎ 梅は鏡前の粉を抜き 蘭は珮後の香を薫らす」

「令和」は、日本最古の歌集である万葉集に掲載された上記の歌を典拠とし、制定されました。そして、太宰府市は、その「梅花の宴」が実際に行われた地であります。「万葉集」・「梅花の宴」の原点と言えるこの地で、皆様をお迎えできることに、喜びと感謝を感じております。

万葉集の編纂者・大伴家持の父である大伴旅人が、大宰帥(長官)としてこの地に赴任していた時、当時めづらしかった梅の花を愛で、32首の歌を詠みあった「梅花の宴」は、当時、13歳だった家持に影響を及ぼしたと考えられます。その後、大伴家持は成長し、「万葉集」の編纂者として、後世に名を残すとともに、日本に、唯一無二の文化資産を生み出すこととなります。

「令和の万葉大茶会」は、これまで、「東京」「高岡」「鳥取」にて開催されてまいりました。今回、コロナ禍以降、初めての開催を、「万葉集」・「梅花の宴」の原点である「太宰府」にて行わせていただくことも、新しい時代に向かって象徴的な事であると感じるとともに、厳しい状況下、本事業のバトンをリレーしていただいた各地の大会関係者の皆様には深く感謝申し上げます。今回の太宰府大会を通じて、そのバトンを、しっかりと次の多賀城市様及び、それ以降に開催の地にお渡ししたいと考えております。

今回の大会では、その「梅花の宴」が行われたと言われる大宰府政庁跡にて、「梅花の宴 再現」を行います。オリジナルに限りなく近い場所で、古代の風景を現代によみがえらせる取り組みであり、太宰府ならではの自負しております。時期的にも、2月は梅のシーズンであり、「梅花の宴」が実際に開催された時期に近い時期となっています。

太宰府市には、万葉ゆかりの地として、「大宰府政庁跡」、「大宰府展示館」、「坂本八幡宮(大伴旅人邸候補の1つ)」を中心に、多くの施設があります。また、太宰府市のもう一つの観光の拠点である「太宰府天満宮」は、インバウンド観光客にも大変人気がある場所です。現在、「御本殿」は124年ぶりの“令和の大改修”が行われています。約3年間を要する大改修にあたり、その期間は御本殿前に「仮殿」が建設されておりますが、その造形美から、大変高い評価を得ています。今回は、限られた時間ではございますが、ぜひ、そうした地もご訪問いただければ幸いです。

未来へこの自然を伝えていくために、水素エネルギーを活用し、広く発信していきます。

旅人・家持親子のこの地での生活に思いをはせつつ、皆様とともに、文化・歴史・未来を共有できることを感謝し、あいさつの言葉とさせていただきます。

巻5・822 大伴旅人

わが園に 梅の花散る

ひさかたの 天より雪の 流れ来るかも

〔現代語訳 わが庭に梅の花が散る。天から雪が流れて来るのだろうか。〕

新元号「令和」は、万葉集巻五「梅花の歌」の漢文の「序」(じょ)からの出典です。

「初春の令月にして、気淑く 風和らぎ、

梅は鏡前の粉を抜き、蘭は珮後の香を薫らす(梅花の歌三十二首并せて序)」



令和の 万葉 大茶会

初春の令月にして 気淑く風和ぎ

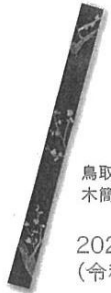
春のよき日、甘い花の香りにつつまれて、歌を詠みあう人々がいた。
それは、万葉と令和の物語の始まり。



東京大会
木簡
2020年度
(令和2年)



高岡大会
木簡
2021年度
(令和3年)



鳥取大会
木簡
2022年度
(令和4年)

2019年度
(令和元年)

730年
(天平2年)

旅人、「梅花の宴」を催す

一月、大宰帥・大伴旅人の邸宅で、宴会が開かれる。
唐から渡ってきた美しい花木「梅」を見ながら、
三十二首の歌が詠まれた。

軽井沢G20環境関係閣僚会合「令和の大茶会」開催

2020文化庁日本博事業
「令和の万葉大茶会 東京大会」開催

多摩川に さらす手作り さらさらに
なにそこの児の ここだかなしき
(巻十四 3373 東歌)

「令和の万葉大茶会 2021 高岡大会」開催

馬並めて いざ打ち行かな
洪谿の 清き磯廻に 寄する波見に
(巻十七 3954 大伴家持)

「令和の万葉大茶会 2022 鳥取大会」開催

新しき年の始の 初春の
今日降る雪の いや重け吉事
(巻二十四 516 大伴家持)



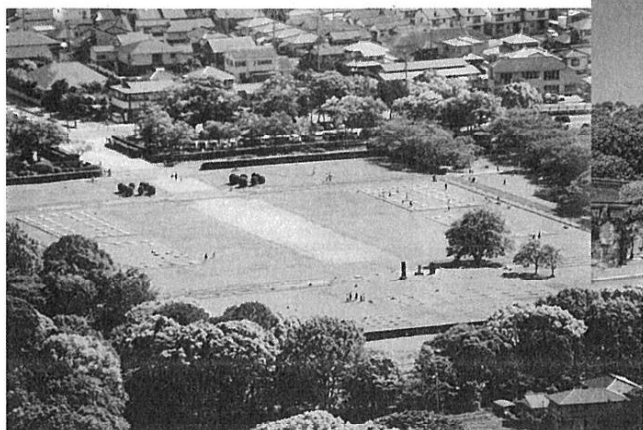
東京大会



高岡大会



鳥取大会



大宰府政庁跡



太宰府天満宮

EXPO
2025

大阪・関西万博

2025年度
(令和7年)

2023年度
(令和6年)

2024年度
(令和6年)

太宰府大会
木簡

「令和の万葉大茶会 2023年度太宰府大会」開催

わが園に梅の花散る

ひさかたの天より雪の流れ来るかも

(巻五 822 大伴旅人)

宮城県多賀城市

大伴の遠つ神祖の奥つ城は

しるく標立て人の知るべく

(巻十八 4096 大伴家持)

奈良県高市郡明日香村

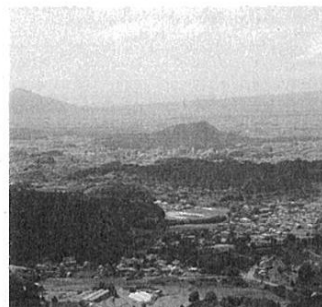
大君は神にし坐せば

赤駒の匍匐ふ田井を都となしつ

(巻十九 4260 大伴御行)



多賀城は、奈良・平安時代に陸奥国の国府が置かれたところで、奈良時代には鎮守府も置かれている。782年(天応2年)に65歳の家持が赴任。68歳で生涯を終えたとされる終焉の地。

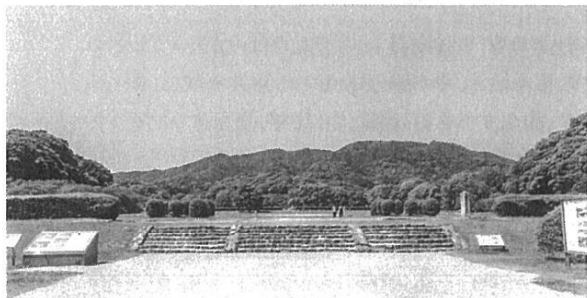


7世紀に建設された4時期(飛鳥岡本宮、飛鳥板蓋宮、後飛鳥岡本宮、飛鳥浄御原宮)の宮殿遺跡が残る。中央集権律令国家の誕生の地であり、「日本人の心の故郷」である。

太宰府における 万葉ゆかりの地



大宰府政庁跡

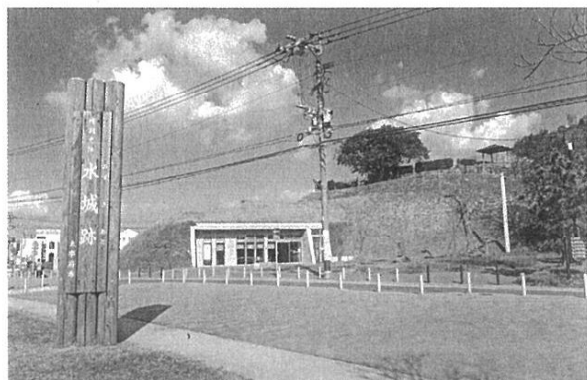


大宰府政庁跡は、7世紀後半から12世紀後半にかけて九州を管轄する行政機関であった「大宰府」の中心的な遺跡です。菅原道真の漢詩から、「都府樓跡」の名でも親しまれています。

「大宰府」は万葉集の中で「遠の朝廷」と呼ばれ、その中枢となる大宰府政庁では、壁と回廊で囲まれた広大な空間に立派な建物と広場があり、重要な政務・儀礼が行われました。

長い年月のなかで当時の建物は失われていますが、古代の重要な場であったことは地域の誇りとして受け継がれており、明治時代には大宰府を顕彰する3つの石碑が建てられています。現在は、日本の歴史を象徴する特に重要な遺跡であることから国の特別史跡に指定されて、周辺の景観を保持しながら文化財として保護されています。

水城跡



水城跡は、現在の太宰府市と大野城市の市境あたりに築かれた防衛施設「水城」の遺跡です。

天智天皇2年(663)、日本は友好国であった百済を救援するために朝鮮半島に出兵したものの、唐・新羅連合軍に大敗を喫しました(白村江の戦い)。反撃を恐れた日本は、大急ぎで防衛のための施設・水城をつくります。

水城跡は7世紀の緊迫した国際情勢を物語る遺跡であり、日本の歴史を象徴する特に重要な遺跡であることから、国の特別史跡に指定され、周辺の景観を保持しながら文化財として保護されています。

水城跡の前には、大伴旅人が3年間の大宰府任官を終え、都に戻る際に水城で詠まれたとされる歌の歌碑があります。

坂本八幡宮



坂本八幡宮は、大宰府政庁跡の北西にある、応神天皇を祭る神社です。もとは戦国時代に建てられたと伝わり、坂本地区の守り神として地元の人々によって大切に守られてきました。この場所は、いま、新元号「令和」の発祥の地として注目を集めています。

「令和」は、日本最古の歌集『万葉集』に掲載されている「梅花の歌三十二首あわせて序」を典拠として名づけられました。この歌が詠まれた「梅花の宴」は、天平2年(730)に大宰府の長官であった大伴旅人の邸宅で開催された宴でした。旅人邸の正確な場所は不明ですが、その候補地のひとつとして、坂本八幡宮の場所が考えられています。

太宰府天満宮



太宰府天満宮は、平安時代の9世紀後半に活躍した菅原道真を祭神とする神社です。日本や世界からも多くの参拝者が訪れています。

天満宮神苑内(大茶会会場周辺)には、梅花の宴において詠まれた、大伴旅人が梅の花が散る様を雪に見立て詠んだ歌と、その歌に対する歌の2つの歌碑があります。

九州国立博物館



九州国立博物館は、太宰府天満宮の隣に建つ博物館です。太宰府への国立博物館誘致は地域の長年の夢であり、九州の政財界や地元住民の尽力によって、平成17年(2005)に実現しました。現在も「市民との共生」をテーマとして、地域と協力して運営されています。

九州国立博物館のバス駐車場付近には、都に戻った大伴旅人に届いた沙弥満誓の歌への返歌として、旅人の帰京した心情を詠んだとされる歌の歌碑があります。

梅花の宴再現イベント 13:00~14:00 会場:大宰府政庁跡

730年、大宰府で盛大に開かれた梅花の宴。

今日は、「梅花の宴」を、大宰府万葉会を中心とした参加者が再現します。

正月立ち春の来らば

かくしこそ梅を招きつつ 楽しきを経め

(巻五 815 大貳紀卿)

梅の花今咲けると散り過ぎず

わが家の園にありこせぬかも

(巻五 816 少貳小野大夫)

梅の花咲きたる園の青柳は

蔓にすべくなりにけらずや

(巻五 817 少貳粟田大夫)

春さればまづ咲くやどの梅の花

ひとり見つつや 春日暮らさむ

(巻五 818 筑前守山上大夫(山上憶良))

世の中は 恋繁しゑや

かくしあらば梅の花にも成らましものを

(巻五 819 豊後守大伴大夫)

梅の花今盛りなり

思ふどちかざしにしてな今盛りなり

(巻五 820 筑後守葛井大夫)

青柳梅との花を折りかざし

飲みての後は 散りぬともよし

(巻五 821 笠沙弥(沙弥満誓))

わが園に梅の花散る

ひさかたの天より雪の流れ来るかも

(巻五 822 主人(大伴旅人))

梅の花散らくはいづく

しかすがにこの城の山に雪は降りつつ

(巻五 823 大藍伴氏百代(大伴百代))

梅の花散らまく惜しみ

わが園の竹の林に鶯鳴くも

(巻五 824 少監阿氏奥島(阿倍奥島))

梅の花咲きたる園の青柳を

蔓にしつつ遊び暮らさな

(巻五 825 少監土氏百村(土師百村))

うちなびく春の柳と

わが宿の梅の花とをいかに分かむ

(巻五 826 大興史氏大原)

春されば木末隠れて鶯ぞ

鳴きて去ぬなる梅が下枝に

(巻五 827 少典山氏若麻呂(山口若鷹))

人ごとに折りかざしつつ遊べども

いやめづらしき梅の花かも

(巻五 828 大判事丹氏麻呂)

梅の花咲きて散りなば

桜花継ぎて咲くべくなりにてあらずや

(巻五 829 薬師張氏福子)

万代に年は来経とも

梅の花絶ゆることなく咲きわたるべし

(巻五 830 筑前介佐氏子首)

年のはに春の来らば

かくしこそ梅をかざして 楽しく飲まめ

(巻五 833 大令史野氏宿奈麻呂)

梅の花今盛りなり

百鳥の声の恋しき春來たるらし

(巻五 834 少令史田氏肥人)

鶯の声聞くなへに

梅の花我家の園に咲きて散る見ゆ

(巻五 841 対馬目高氏老(高向老))

鶯の待ちかてにせし梅の花

散らずありこそ思ふ子がため

(巻五 845 筑前掾門氏石足)

霞立つ長き春日をかざせれど

いやなつかしき梅の花かも

(巻五 846 小野氏淡理(小野田守))

プログラム

記念式典

会場：大宰府政庁跡

12:30～12:50

- ・主催者のあいさつ
- ・歓迎のあいさつ
- ・来賓のあいさつ

梅花の宴再現イベント見学

会場：大宰府政庁跡

13:00～14:00

梅花の宴のルーツ、太宰府にて、古代の風景を再現します。
ご希望の方は大宰府展示館見学、坂本八幡宮見学をご案内いたします。
その後バスにて、太宰府天満宮へ移動します。

令和の万葉大茶会

会場：太宰府天満宮文書館及び旧東屋（うぐいす茶屋横）

14:30～15:30

太宰府天満宮参道を万葉衣装でパレード後、2カ所に分かれ、
「令和の万葉大茶会」を開催します。

講演会・大会キー伝達式

会場：九州国立博物館 ミュージアムホール

16:00～18:30

- ・基調講演① テーマ：令和のふるさとで未来を考える ～地域がはぐくむ環境ビジネスとくらし～
講演者：平尾 禎秀 様（環境省 環境経済課長）
- ・基調講演② テーマ：旅人と家持
講演者：上野 誠 様（國學院大學文学部日本文学科 教授（特別選任）、奈良大学 名誉教授）
- ・各参加自治体による挨拶
[東京都 狛江市、富山県 高岡市、鳥取県 鳥取市、宮城県 多賀城市、奈良県 高市郡明日香村、鳥取県 倉吉市、埼玉県 行田市]
- ・福岡県と太宰府市より、宮城県多賀城市へ大会キー（木簡）の伝達

※上記終了後、ご希望者の方は、博多駅までのシャトルバスをご利用いただけます。

※交流会（希望者のみ）は、シャトルバスにてお送りします。

19:30～ ホテル日航福岡（福岡県福岡市博多区博多駅前2丁目18-25）



大宰府政庁跡



太宰府天満宮



九州国立博物館



新元号「令和」の典拠となった万葉集「梅花の宴」を再現する

このプロジェクトは、日本最古の歌集たる万葉集、その編纂者とされる「大伴家持」の生涯にクローズアップします。幼少期に父である大伴旅人が赴任した地・大宰府にて、舶来の梅を植え、その梅花を愛でる酒宴を興じ、新元号「令和」の典拠ともなった「梅花の宴」を茶会形式で再現致します。記念すべき第1回は、2020年、東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、国の特別名勝・特別史跡に指定されている会場周辺の中央区・浜離宮恩賜庭園で実施されました。

その後は、家持の人生ステージごとに、赴任地である富山県高岡市(2021年度・秋)→鳥取県鳥取市(2022年度・冬)→福岡県太宰府市(2023年度)→宮城県多賀城市(2024年度)と巡り、最後は関西地域ゆかり(大阪府・奈良県高市郡明日香村)の大阪万博(2025年度・没後 1240年)での開催を目指します。特に多賀城市は、2024年に「多賀城創建 1300年」を迎え、東日本大震災からの復興の意味でも象徴的イベントとなります。

実に万葉集では、約4500首のうち、1700首以上で動植物の歌が詠まれており、まさに三首に一首が、ありのままの自然に心を寄せた歌です。家持は、特に季節を意識して歌を詠んだ歌人であり、全20巻のうち、巻八と巻十は、「四季の景物」をテーマに編纂された巻となっています。また、家持の生きた時代は万葉時代の最後期、天平文化華やかかなりし時代ですが、一方で権力争いも続いた時期です。そのため、万葉集には、北九州の防衛について「防人歌」や東国庶民の「東歌」といった、都びとだけでなく、多くの地方庶民の歌も含まれています。日本全国、その地域ならではの自然観や季節感を感じることができるのも万葉集の特色といえます。

こうした家持ゆかりの地域を巡り、和歌の世界観を知することは、例え現代の生活環境や社会通念が変わろうとも、自然を尊び、人を愛し、死を悼む、といった、直接的で、素朴な日本人の心情に大きな隔たりがないことに改めて気づかれます。

環境問題が深刻なりし今こそ、古より自然を敬い、尊んできた日本人の精神性を問いなおすべきであり、「万葉集」は、それを学ぶ最高の教科書です。

また、本イベントでは、和歌に優れた英訳詩を付け、世界に発信も試みます。和歌を通し、家持の世界観を知ること、外国の方々も関西や太宰府だけでなく、そこから現存する家持ゆかりの他の地域へ足を運んで頂く新たなゴールデン・ルートの構築となるに違いありません。さらに、100年後の子供たちにも万葉集に詠まれる日本の四季が理解されるよう、自然環境や気候変動に配慮し、日本の最先端技術の結集である水素燃料電池より電源を調達し、CO₂を出さないように試みます。自然への敬意が、「万葉の時代から令和の時代」へと連綿と紡がれていることも重ねて発信致します。

令和・家持ネットワーク協議会(2020年1月記)

本事業では、「令和の万葉大茶会」と連携し、

「観光庁 インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」を活用しながら、
太宰府の観光振興・地域経済の活性化を目指します。

主 催 令和の都ださいふ万葉大茶会実行委員会
共 催 九州国立博物館
後 援 福岡県、太宰府市
協 賛 第一実業株式会社、株式会社エイブル、孫の手トラベル

助 成 観光庁、太宰府市
協 力 福岡市、九州大学 水素エネルギー国際研究センター
九州大学洋上風力研究教育センター
企 画 一般社団法人 令和・家持ネットワーク協議会